

発災とともに駆けつけ、
協働で支援し、
被災者に寄り添う
～災害ボランティア・NPOの先達紹介～

各地で災害が発災した際、いち早く被災地に駆けつけ、災害ボランティアセンターや社協と連携・協働を進め、被災者への支援を行うボランティア・NPOの活動を紹介します。

第6回

天理教災害救援ひのきしん隊 (略称、災救隊)



<https://www.tenrikyo.or.jp/jpn/saikyu/>

本部 奈良県天理市

奈良県天理市に本部隊が、47都道府県には教区隊が常設されています。各教区隊の隊長を中心にそれぞれの地域で活動し、状況に応じて本部隊と連携して災害救援にあたっています。

“有事”の際には迅速に被災地へ駆けつける体制 - 全国の仲間が応援に駆け付ける -

天理教災害救援ひのきしん隊(以下、ひのきしん隊)は、本部隊と全国の都道府県を単位とする47の教区に常設され、総隊員数約4,000名が活躍する全国規模の災害救援組織です。ひのきしん隊は、1971年に正式に発足し、全国各地で災害救援活動を行ってきました。1995年の阪神・淡路大震災では延べ1.3万人が活動し、2011年の東日本大震災では延べ3万人が活動をするなど、メンバーが日本全国から駆けつけられることを強みにしています。

最近の活動では、2022(令和4)年8月3日からの大雨では、新潟教区隊が駆けつけ、新潟県社会福祉協議会、村上市・関川村社会福祉協議会と協力し、村上市坂町での給水活動や、関川村災害ボランティアセンターと連携して水没品の搬出や泥かきなどを行い、その後、本部隊(新潟、群馬、長野、埼玉教区隊を含む)の出動となり、延べ184名が村上市・関川村の

復旧にあたっています。他にも、青森・石川・福井教区隊が、地元社協などと連携してこの大雨による水害の救援活動を行っています。

また、2020(令和2)年7月豪雨では熊本教区隊が球磨村社会福祉協議会と協力し、本部隊も協力要請を受け、地域の神社の敷地内の災害ゴミの搬出や建物の解体など活動に尽力しました。

被災地に迷惑をかけない“自己完結型”の救援活動を展開

ひのきしん隊は、災害発生時には社協や自治体などと連携しながら、被災地に迷惑をかけない“自己完結型”の救援活動を展開することをめざしこれまで活動してきました。例えば、トラックや重機などを調達して被災地へ赴き、必要な設備を使用して復旧や専門的な救援活動の実施や、隊員の「衣食住」に関わる生活資材すべてを自らで準備することです。被災地では、被災した人々の身になって丁寧な作業を心がけ、地震の際の倒壊家屋の解体・撤去および後片付けや、降り積もった火山灰の除去、海岸に付着した重油の撤去・清掃作業、水害によってたまった土砂や流木の搬出や清掃作業などを行っています。

また、平時には、いざという時に備えた定期的な訓練を実施し、災害救援に必要な知識や技術を身に付けるほか、隊として統率のとれた行動ができるよう、規律訓練も行っています。

● 令和4年8月3日からの大雨の災害救援活動(天理教新潟教区隊ホームページより)

● 令和2年7月豪雨の災害救援活動(天理教熊本教区隊ホームページより)



床下にもくった泥出し作業



球磨村千寿園(高齢者福祉施設)で屋内被災物搬出や汚泥撤去

最近の主な災害対応

令和4年7月14日からの大雨(2022年)、令和4年8月3日からの大雨(2022年)、令和4年台風8号による災害(2022年)、令和3年7月豪雨(2021年)、令和3年8月豪雨(2021年)、令和2年7月豪雨(2020年)ほか

インフォメーション

「ボランティア全国フォーラム 2022」を、 会場参加により開催します! 「広がれボランティアの輪」連絡会議

ボランティア・市民活動を進める皆さんの研究協議の場「ボランティア全国フォーラム2022」を開催します。今年度は感染防止対策に配慮しつつ、会場参加により開催します。ぜひご参加ください。



【日程】2022年11月18日(金)・19日(土)
【会場】第1日 東京ウィメンズプラザ(東京都渋谷区)
第2日 全社協会議室(東京都千代田区)

詳細・申込は、9月末に「広がれボランティアの輪」連絡会議ホームページでご案内します。

「広がれボランティア」で検索

<https://www.hirogare.net/>